

令和7年度第4回新居浜市広報委員会会議録

日 時 : 令和8年2月27日(金) 14:00~14:45
場 所 : 新居浜市役所4階 41会議室
出席委員 : 吉岡奈津子会長、久持信委員、石川千凡委員、松本佳奈委員、岡龍聖委員、古川友三委員、宮脇立志委員、鈴木亜希子委員、石川徹委員、桑原和也委員、(計10名)
欠席委員 : 中島あずさ委員、菅洋平委員(計2名)
事務局 : 青野副課長、野口主任、高須賀主事(計3名)

1 開会

2 会長挨拶

足元の悪い中、議会中、お忙しい中、広報委員会にご出席いただき、ありがとうございます。今回は最後の広報委員会ということで、皆さまには大変お世話になりました。この一年様々な意見をいただきまして、担当課としても皆様のご意見を反映していきながら一年間よりよい広報を目指して取り組んでまいりました。有難いことに市政だよりが見やすくなった、SNSの発信内容が魅力的になったなどのご意見をいただけるようになりました。これは広報委員さんのおかげだと思っています。今回も忌憚のないご意見をいただければと思っております。最後の会ではありますが、よろしく願いいたします。

3 議題

(1) 前回の広報委員会後の取り組みについて

前回の広報委員でのご意見も参考にして、より市民参加で若い世代にも興味を持っていただけよう工夫した。

・市政だよりの内容

表紙1月号と3月号で市民に出していただいた。(角野公民館の三世代もちつき大会、宮西小学校の卒業記念銅板レリーフ制作)

1月号より目次ページに「DonDonにいハマ」YouTubeでも配信中であることを紹介
特集 カラーページで紹介

1月号 高瀬隼子さん、新居浜の郷土芸能紹介

2月号 はたちの集い

3月号 おでかけタクシー

10月~はじまった「発見!! まちのEAGER BEAVER」(がんばりやさん)では、若い世代を1~2名を毎月紹介

令和7年度の広報コンクールで12月号の大島の秋祭りで「組み写真部門」で佳作

・Instagramには旬なネタを掲載した。

12月：クリスマスのイルミネーション特集、1月：市内のお正月風景、2月：滝の宮公園の梅園など身近に行ける季節感あるネタをアップしている。

(2) 広報について意見交換

議題に沿って、全員が順番に発表した。(事前提出物なし)

■今後の広報委員会のあり方について思うこと。

どのような広報委員会であれば参加したいか、市の広報に興味を持てるか。

1年間の広報委員を務めての感想など

・様々な広報媒体を見つめ直す良い機会になった。特に1月号の高瀬隼子さんの特集は、市民からも好評だった。情報を伝えるだけでなく、伝わる為の工夫や責任について考える一年だった。色々な媒体があるので、世代毎に絞った媒体や表紙の写真のみだしの工夫はもっとできるのではないかと思う。

・積極的に市政だよりや広報に関わるようになって、ものの見方や観点が変わってきた。行政は固く表現しがちなので、生の声、臨場感あふれるほうが、耳を傾けてくれる印象を持った。

・知識がないまま参加したが、広報のことを知る機会になり良い勉強になった。

・市の広報について、自然に関心を持てるようになった。たくさんの工夫や配慮があることがわかった。

・広報委員会は、公募の市民、自分で手をあげて参加している職員、それ以外の職員がいるが、自分で手をあげて参加している人はいるのか。この委員会を活発化するには、市民も職員も自発的に参加する人が増えれば内容が活発になるのではないか。具体的にどうすればよいか考えてほしい。

・おもしろいかなと思って参加したが、あまりおもしろくなかった。市の職員は自分の仕事で忙しい、出席もままならない、考える時間もない。公募した市民が2名では議論はできない。受け手の意見がもっと受け入れられるような工夫をしないといけない。受け手の意見を集める努力をしなければ、話し合う場にはならない。事務局の工夫は感じた。市の職員は、広報にもっと頭を砕いてもいい。自分の仕事を理解してもらうために大事である。市職員への批判もあるが、市民が望むことを理解して対応できる公務員になることが大事。市民の声を集める組織を作り、もっと工夫していかないといけない。

・市政だよりや他の広報誌のレイアウトを見たりするようになった。劇的に良くなることはないが、日々ブラッシュアップしていくしかない。そのためにも市民、受け手の声を集めないといけない。これからもブラッシュアップを重ねていくことが大事だと思った。

・写真を多く取り入れたりして、よく工夫しているなど素直に感じた。毎回、改善点の報告

もあって素晴らしい対応をされていると思う。

・参加するまでは、プロの人が作っていると思っていたので、色々な制限がある中で、職員が作っていることを知って尊敬の気持ち。市民参加の為には、ハローニューアンバサダーに参加してもらい、郵便局など提携連携協定を結んでいる企業の方に参加してもらってはどうか。

■自由意見（ある人のみ）

・消防でラジオのレギュラーを持つことになった。「ひるはま」という番組で月2回5～10分間、4月から1年間。消防の仕事を紹介し働いてみたい人を増やす、季節のお知らせでは注意喚起などを行う予定。

・市の広報は、自分の部署だけで各々広報しているのではないか。他部署との連携はできているのか。それぞれの部署をうまくまとめるのは難しい。情報の整理ができない。市の広報の捉え方がよくわからなかった。

⇒消防や水道局は別組織になるため、広報を一つにまとめることは難しい。市政だよりの行政部門はこちらで権限を持っている。今の段階では、すべてをひとつのするのは難しい。

■最後に一言

・これからも市政だよりを読んで話題に挙げていきたい。

・広報に携わったことがなかったので良い機会になった。

・広報において横のつながりは難しいが、広報した水道局70周年のイベントは、評判は良かった。浅くても広く伝わるような工夫をしていけたらと思う。

・好きなことを言わせてもらった。要はコントロールする部門が広報をしっかり捉えて、何を伝えるか出す人がまず考えることがポイント。図書館は広報に関係していいなと思った。広報は頭のゲームである。言い残したこともあるが、事務局は広報の狭い中で苦勞して、努力し見やすくなってきた。カラー化するなど狭い範囲で努力した。もう少し広くできないかなと思う。

・去年より出席できた。あまり良い意見が出せなくてすみませんでした。

・今、発信しているものがどういうものか掘り下げて考える機会になり、色々と吸収できて良かった。これからの広報活動に活かしたい。

・市政だよりに出るだけで市民の反応が違う。SNSやHPなど効果的な発信の仕方があるか教えてもらいたい。情報共有をしながらやっているが、うまくできず葛藤の中でしている。消防のインスタが楽しい。見ていておもしろいと目を引く。そういうものができたら良いと思う。

4 事務局から

・市民の声を集めるのにこんな時間帯にやっていいのか。オンラインを使うなど委員会のやり方について見直したい。市政だよりについては、これからの 90 周年、100 周年につなげていきたい。一人よがりで作っても誰も読んでくれない。皆さんには、課のメールでかまわないので、忌憚のない意見をこれからもお願いしたい。

・広報の目的は、知ってもらうことで終わりではなく行動変容することである。広報委員の中でもこれまで市政だよりを読んだことがない人が広報に興味を持って見るようになったことも種まきになった。市民委員の皆さんにも色々な意見をいただき、参考にしたおかげで市政だよりを市内のスーパーなどにも置くようになった。今後は、市政だよりだけではなく SNS、HP の連携など、マルチメディアについても進めていかなくてはいけない。

・皆さんからいただいた意見を少しでも反映したく、何か取り入れることはできないか、励みにしながら作っていた。まだまだ足りないところや市民の声も聞けていないので、次年度は少しでも声を聞いて市政だよりの作成に活かしたい。

5 閉会